

## OKUBO TOPICS

### 2012年11月10日(土) 第2回区立幼稚園のあり方の見直し地域説明会

～大久保地域センター 多目的ホールにて～

現在、新宿区教育委員会は、子ども園の新設に伴って、大久保幼稚園の廃園を検討しています。

2012年8月3日、新宿区教育委員会が、区立幼稚園4園（戸塚第一、大久保、余丁町、早稲田）の廃園方針を発表しました。9月より保護者説明会、地域説明会が開始され、保護者や地域住民による幼稚園存続へむけた署名活動、陳情活動が始まりました。10月4日の新宿区教育委員会定例会では、廃園方針の決定が見送られています。

編集部の阪口は、11月10日に大久保地域センターで行われた第2回地域説明会に参加しました。その場で発言された、当事者の方々の声をお伝えいたします。

Aさん（保護者の女性）

「大久保幼稚園は、外国にルーツのある子どもたちが多く通っていて、他の小学校や幼児教育へのモデルにもなっています。幼児教育の予算を減らしたら、犯罪が増え、矯正施設を作らなければならなくなり、かえって財政が厳しくなったというアメリカの事例もあります。将来的なことをよく考えて検討していただきたいです。今、財政が苦しいということはわかります。しかしその時だけのことを考えて、地域の人の歴史を無視しないでいただきたい。幼稚園が無くなってからでは取り返しがつかないのです。他の子ども園や幼稚園でも出来ると言いますが、無理だと思います。外国からも、大久保幼稚園を目指してやってくるんです。お母さんたちの口コミで。それを簡単につぶして他でも出来るとは、どうなのでしょう。この場所での努力があってやれているんです。簡単に言わないで頂きたい。」

Bさん（教育委員会事務局 学校運営課）

「大久保幼稚園の取り組みが、すぐに出来たことだとは思っていません。昭和38年に設立され、一時的に園児数が減ったりしながら、いろんな取り組みをやってきて数が増えている。地域の皆様のとりくみがあってできたことだと認識しています。他の場所で、直ちにできるかといえば、それは難しいと考えているが、大久保幼稚園だけで多文化共生をやっているわけではありません。他の園でも、一定数の外国の子どもがいますので、その取り組みを大久保幼稚園以外でも進めていきたいと考えています。」

Cさん（保護者の女性）

「1978年に、うちの子どもたちが大久保小学校に通っていました。当時、外国の子どもたちに対して、親たちには戸惑いがありました。それで日本人の親たちが離れて行ったんです。そこから私達は努力して、ここまでやってきました。多文化共生というのはすぐに出来るものではありません。20何年かかっています。それを他でも出来ると言われても、納得できません。私たちは、外国の人たちと一緒にやっっていこうと思い、親たち、子どもたち、地域の人たちの努力があったのです。他の園での取り組みが実現するまでには時間がかかるとおっしゃいましたが、その間の子どもたちはどうなるんですか。主役は子どもたちです。今0～6歳の子どもたちは、軌道に乗るまであやふやな状態に置かれるんです。子どもたちのことを、どう考えていますか。」

Dさん（保護者の女性）

「私は、大久保小学校で PTA もやっていますが、その 7～8 割は幼稚園からの人たちです。保護者の PTA 活動によって大久保小学校での取り組みは成立しています。それは幼稚園の PTA があるからです。新宿区は、大久保小学校を全国的にも多文化共生のモデルとして打ち出すとっていますね。幼稚園への感謝があって、小学校の活動があります。その感謝があって、幼稚園への協力があります。その根底を無くすというのですか。」

保護者の方々を中心に、署名活動が展開しています。詳細は、以下の署名用紙をご参照ください。

[http://korea-ngo.org/kyoiku/kyoiku\\_pdf/sign\\_okubo\\_kindergarten.pdf](http://korea-ngo.org/kyoiku/kyoiku_pdf/sign_okubo_kindergarten.pdf)

本紙でとりあげたコリアNGOセンター東京事務所が、署名の集約を引き受けてくださっています。皆様のご協力をお願いいたします。

署名の送付先：コリアNGOセンター東京事務所

169-0072 東京都新宿区大久保 1-12-1-8F

FAX：03-3203-5655